



甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2026年7月
No.46

●甲府やまなみクラブ会長主題：継続は力なり

～困難があってもバランスを保ちながら進み続けましょう～ 松本 公夫

●あずさ部長主題：親睦とCS活動を部の原動力として外へ飛び出そう!! 大和田浩二(松本)

●東日本区理事主題：挑戦無くして進化なし 山下 真(十勝)

●アジア太平洋地域会長主題：アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる ラチャン・マニカーン(タイ)

●国際会長主題：ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク

(フィンランド)



●今月の強調目標
キックオフ・PR

●今月のことば

「自分の内なる光を信じよ」

ラルフ・ワルド・エマーソン 土橋 順 君 選(3ページ参照)

今月の例会案内(第46回)

- 日時：2026年7月11日(土) 11:00～14:00
- 会場：コミュニティスペース「くらんく」
会場案内図は5ページに掲載
- 会費：1,500円(食事代・映画鑑賞料)

【第1部 例会】

- ・開会点鐘 米山 俊彦 直前会長
- ・ワイズソング 一同
- ・会長引継ぎ・バッジ交換
- ・新会長挨拶 松本 公夫 会長
- ・今月のことば 土橋 順 君
- ・定期総会
- 〈第1部〉議長 米山 俊彦 直前会長
前年度事業報告・会計報告・監査報告他
- 〈第2部〉議長 松本 公夫 会長
新年度事業計画・予算案他
- ・諸報告
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー
- ・閉会点鐘 松本 公夫 会長

【第2部 ワイズランチ】

【第3部 映画鑑賞】

「ザ・ウォーク ～少女アマル、8000キロの旅～」
映画の内容は5ページに掲載

6月のデータ

会員数:12名 例会出席:メン9名 ゲスト:5名
ビジター:4名 例会出席率:75%
ニコニコ:3,450円

ハッピーバースデー

メン 松本 公夫 (7/23)
メネット 遠藤 友美 (7/14)

●●●● 会長メッセージ ●●●●

「継続は力なり」 会長 松本 公夫



ワイズメンズクラブの新年度がスタートしました。今年度から甲府やまなみクラブの会長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

甲府やまなみワイズメンズクラブは本年9月に設立から

5年目に入ります。米山前会長には多方面にご尽力いただき感謝申しあげます。会長就任にあたり主題として「継続は力なり」～困難があってもバランスを保ちながら進み続けましょう～を掲げました。

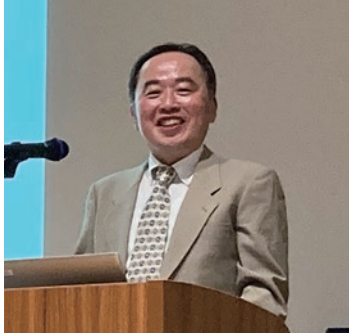
歴代の会長及び会員の今迄の活動実績をふまえ、今後も地道に継続し、少ない会員間のバランスを保ちながら進み続ける所存であります。

ワイズメンズ活動の支柱でありますYMCA事業(各種イベント等)のサポート、および地域奉仕活動や多文化共生等にも参画し、活動の幅を広げクラブの充実を推進していきたいと思っております。つきましては会員の皆様に従来通りご協力を改めてお願い申し上げます。

結びに、甲府クラブ、甲府21クラブ、富士五湖クラブ、更にあずさ部、東日本区の関係者の皆様、今後共ご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

● 賑やかだった6月例会 ●

仙洞田 安宏

今期最後となる6月例会が6月3日(水)、山梨YMCA3階ホールで開かれました。今回の卓話をNPO法人山梨ホスピス協会理事長で山梨県立中央病院緩和ケアセンター統括部長であられる阿部文明様
にお願いし、ホスピスを仕事として、またボランティアとして活動されている立場からのお話しをお願いしました。「わたしの思うボランティア」という演題であったので、甲府クラブや甲府21クラブまた、個人的な知人・友人にも声掛けしました。

【講師・阿部文明様】

卓話は、阿部さんの生い立ちから現在までに至る時間軸に、その時々エピソードを交えて時にユーモラスに、また時にシリアスに語られました。

県立中央病院に緩和ケア病棟が開棟されたのが2005年、卓話では病院の玄関から、病室までの道のりと病室の設備等を写真で紹介されました。一方山梨ホスピス協会は1993年に発足し、緩和ケア病棟との繋がりや、協会の主な活動(がんに関する相



▼6月例会ニコニコメッセージより▼

▼例会にお誘いいただき、ありがとうございました。阿部先生のご講演では印象に残るお話がいくつもありましたが、特に「面白い」は「心が明るくなる」が語源であることを初めて知り大変興味深く感じました。

また、阿部先生は昭和37年3月17日のお生まれで、生年月日の数字がすべて素数であるとのことでした。一方、私は昭和36年12月24日生まれで、全て12の倍数であり12には多くの約数があることから、阿部先生と私は同学年でありながら数学的には対照的であることが何とも興味深く、「面白い」(心が明るくなる)と感じました。私も「愚公山を移す」の精神を胸に、努力を重ねてまいりたいと思います。

(ゲスト・幡野 順様)

▼横山宏先生(ホスピス協会前理事長)の娘さんと高校の同級生でした。今夜のお話しとても愉しかったです。(芸人さんみたい) 私も三鷹にご縁があり、甲府から通いました。切符を買う時に「見たか、聞いたか、はい三鷹」と言って駅員さんが売ってくれたことを思い出しました。(ゲスト・幡野恵子様)

談、ボランティアの養成と実践、講演会・研修会の開催、映画上映会、がんサロンの開催等)を紹介されました。

ボランティアについては、①自主性(主体性)、②無償性(無給性)、③社会性(連帯性)、④創造性(先駆性)の「4つの原則」を示されましたが、「人のため」と「自分のため」の頃合いが難しいとお話で、頷けることが多々ありました。

大勢の出席者で年度の最後を飾るにふさわしい例会でした。

出席者(敬称略)やまなみ:米山・松本・渡邊・大澤・遠藤(恭)・藤原・和田・仙洞田・田草川、ゲスト:阿部文明・永井愛子(山梨いのちの電話理事長)・幡野順・幡野恵子(仙洞田知人)・中田純子(山梨YMCA総主事)、ビジター:小倉恵一・標克明・渡辺徳之(甲府)・標恭子(甲府メネット)

▼ありがとうございました。大変参考になりました。

(甲府クラブ・渡辺徳之)

▼阿部先生の間味あふれるお話、有り難うございました。おもしろきこともなき世をおもしろく(米山俊彦)

▼ホスピス協会緩和ケアについて、施設や患者さんの過ごし方等を紹介していただき理解できました。また健康保険も適用ということも知りました。(松本公夫)

▼阿部理事長、貴重な話をありがとうございます。

(渡邊 隆)

▼お話の中で「生老病死」という言葉が聞かれました。先の事は分かりませんが、この言葉のように生まれれば終わりが待っています。前向きの気持ちで志を持って毎日を送って行きたいと思いました。出張も一段落して安心しました。感謝! (和田幸士)

▼有り難うございました。

(藤原一正)

▼ボランティアについて、他の人に迷惑にならないようにというのが印象的だった。こちらの気持ちだけでは良くないということがあるけれど、気持ちも大事だし、、、ホスピス病棟の知らないことを知れた貴重な時間だった。(田草川啓)

★ 第29回東日本区大会報告 ★

渡邊 隆

6月6日(土)、東日本大震災後15年の節目に東日本区大会が石巻広域クラブのホストの下に、石巻河北総合センターにおいて盛大に開催されました。震災から歩み続け「瓦礫、命、感謝。次の未来へ」という思いを共有しながら、大会実行委員会の皆様が中心になり、石巻広域クラブチャーター10年目に立派な大会をホストされました。ワイズの高齢化が進む中で、東日本区の若者が率先、リードして若者の息吹を感じる素晴らしい大会でした。石巻広域クラブチャーターの年に理事という立場を頂き、何度か訪問させていただきました。

10年前では、災害の爪痕が残され、また被害にあわれた多くのご家族の話を伺いました。今大会翌日は石巻市を取り囲む北上川河口に位置する牡鹿(おしか)半島の復興状況を見ることができました。今でも裁判が解決できていない大川小学校の災害あと、津波に飲み込まれた雄勝町地区、ワイズの協力のもとに作られたモニュメント「津波の教え石」の一つが



♥ 会員短信 ♥

♥ 松本公夫さん

永年にわたる訪日外国人観光客に対する善意通訳として活動され、国際観光の振興に多大な貢献をされたことに対し日本政府観光局より表彰されました。

♥ 藤原一正さん

一般社団法人山梨県中小企業診断士協会の会長に就任しました。

◆ これからの予定 ◆

- ✓7月19日(日) ソライチ(甲府駅ペDESTリアンデッキ)
- ✓8月1日(土) あずさ部評議会(長野)
- ✓8月5日(水) 8月例会(山梨YMCA)
卓話「ボーイスカウト運動と山梨YMCA」
- ✓9月2日(水) やまなみ・甲府合同例会
卓話「山梨Yの不登校問題への取り組み」

名振地区の港を望める場所に設置されています。

皮肉にも、昭和8年3月3日の昭和三陸津波の津波到達地点を記した朝日新聞によるモニュメントと一緒に置かれてありました。

また、女川湾と平行に広がった港町を限られた時間の中で復興の様子を見ることができました。大川小学校以外は災害の跡は全く見えず、きれいな建物が並ぶ地域に代わっていました。今回やまなみからは自分と家内だけでしたので、狭い地域しか行動できませんでした。次回は石巻と甲府・甲府やまなみY'sは交流を重ねることができる関係にありますので、次回に持ち込みとしたいと思います。

最後に大川小学校の石碑を伝えさせていただきます。

2011年3月11日

いつもと同じ朝でした

「行ってきます」の後ろ姿を見送ったあの日

「寒かったでしょう」とあたたかい手で抱きしめてあげたい

14:46 地震発生

14:49 校庭に避難開始

14:52 防災行政無線による大津波警報の広報・スクールバスは学校前に待機

15:30 児童を迎えに来た保護者へ引渡し・山へ避難を呼びかける声があった

15:25 石巻市広報車が北上川河口の松林を津波が越え、高台避難を呼びかける

15:36 自転車小屋脇の狭い通路から三角地帯へ向けて避難開始

15:37 避難途中、川側からの津波に遭遇する学校に津波到着

▼ 今月のことば ▼

土橋 順

「自分の内なる光を信じよ」

アメリカの思想家エマーソン(1803~1882)は言った。「自分の内なる光を信じよ」と。

私たちはしばしば、外の世界に答えを求める。誰かの評価、社会の基準、時代の流行-それらに照らされてはじめて、自分の価値を確かめようとする。そして、時代の奴隷となる。

しかし、エマーソンが見つめたのは、その逆の方向だった。人はそれぞれ、内側に固有の光を持っている。私たちが自らの人生を切り拓くとき、内なる光からエネルギーが湧き出ている。磨かれるのを待つその光は、比べることも、奪われることもない。台風やら地震やらに翻弄されることなく、内なる光から湧き出るエネルギーをもって新たな時代を築いていこう。

▼ 山梨YMCA創立80周年 記念式典に参加して ▼

米山 俊彦

6月27日(土)、山梨YMCA創立80周年記念式典が、山梨YMCA大澤英二記念ホール「ベテル」で開催され、やまなみクラブからは、大澤さん、松本さん、仙洞田さん、渡邊さんと私の5名が出席しました。

前日の山梨県では102年ぶりとなる震度6弱の地震の影響でYMCAのエレベーターが止まってしまうハプニングがあったり、台風の影響も心配されましたが、記念式典と感謝会には、来賓や会員など94名が出席する盛大な式典となりました。

野々垣理事長の挨拶では、山梨YMCAの課題、並びにその解決に向けたこれまでの職員の努力について説明があり、今後も山梨YMCAが発展していくために、関係各位の協力が大切であるという話がありました。

また、来賓の山梨県知事、甲府市副市長、そして遠く台湾から来日された台南YMCA元副総幹事・劉

克全氏の祝辞は、山梨YMCAの“つながり”の大きさを感じるものとなりました。

その後、「YMCAのあるべき姿 山梨YMCAへの期待」というテーマで、日本YMCA同盟前総主事田口努氏の記念講演と「創立80周年を振り返って」と題して、これまで長きに亘って山梨YMCAとともに歩んでこられた岩間孝吉氏と露木淳司氏による感話があり、山梨YMCAの精神と80年の歴史の一端に触れる事ができました。

式典の後の感謝会では、大澤祥子さんが、大澤英二氏との結婚に伴って、東京から山梨へ移住し、山梨YMCA内に新居を構えて、生活の全てが山梨YMCAと共にあった当時のエピソードを披露され、「私は、山梨YMCAと結婚しました」と愉快地思い出を語っていただきました。

やまなみクラブは、設立から4年がたったところで、山梨YMCAとの関係も緒に就いたばかりですが、これからも山梨YMCAとの連携をさらに深め、協力し合いながら、ともに活動を進めていきたいと思いました。



山梨 YMCA 総主事
中田 純子

「繋がれたバトン 次なる一步への使命」

ワイズメンズクラブの皆様、主のみ名を賛美いたします。日頃より山梨YMCAの歩みを温かく見守り、祈りとお支えをいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、6月に開催されました「東日本区大会」におきまして、皆様と共に石巻の地に集い、同じ祈りを捧げ、語り合えましたことは、私にとりまして胸がじわっと熱くなるような、かけがえのない時間となりました。今回の大会が「石巻」という場所で行われたことには、神様が備えてくださった深い意味があったと感じております。

東日本大震災から歳月が流れた今もなお、現地の方々痛みを抱えながらも一步一步歩んでこられた道のり。そして、その傍らに常に寄り添い、共に涙し、共に歩み続けてきたYMCAやワイズメンズクラブの足跡。それらは、「誰かのために生きる」というワイズマインドの本質を、私の心に改めてそっと問いかけてくれるものでした。困難の中でも前を向き、力強く生きる石巻の方々の笑顔、転んでもまた立ち上がる姿、そして今も大切に紡がれている支援と交流の絆に触れ、何度も胸が打たれ、目頭が熱くなりました。

さらに今回は、会員総会に合わせ、「山梨YMCA創立80周年記念式典」を皆様と共に執り行うことができ

ましたことも、言葉に尽くせないほどの大きな喜びであり、感謝の極みでございます。この長きにわたる歴史は、決して平坦な道のりばかりではなかったはずですが、それでも、ワイズメンズクラブの皆様をはじめ、多くの諸先輩方がその時々々に尊い汗を流し、愛の手を差し伸べ、神様の確かなお導きの中でこの節目へと繋いでくださいました。

この大切な日を皆様と笑顔で迎えられたことは、これからの歩みへの大きな力となります。石巻の地で私たちが受け取ったのは、単なる感動だけではありません。それは、この80年という歴史の重みをしっかりと胸に抱きながら、「今、私たちが生きるこの山梨の街で、何をすべきか」という未来への尊いバトンです。山梨という地にあっても、日々の暮らしの中で孤独や課題を抱え、寄り添いを必要としている方々が必ずおられます。石巻でいただいたたくさんのエネルギーと、80周年の節目に与えられた感謝の思い。これらをしっかりと山梨YMCAの活動、そしてワイズメンズクラブの皆様との共同の奉仕へと繋げ、誰もがホッとできるような、温かい地域社会を皆さんと一緒に築いていきたいと、決意を新たにしております。

大会の開催に向けて心を尽くしてくださったすべての皆様へ深く感謝いたします。ワイズメンズクラブの皆様の日々の歩みの上に、そしてご家族の皆様の上に、神様の豊かな祝福と慈しみが今日も明日も豊かにありますよう、心を込めてお祈り申し上げます。

♣ やまなみ農園だより ♣

6月の農園はサツマイモとジャガイモの株間の草取りがメインでした。

6月23日、24日と梅雨の晴れ間をぬって、全体の1/2ほどのジャガイモを収穫しました。種芋が大きかったせい、驚くほど大きいじゃがいもが収穫できました。ソライチ(フリーマーケット)が6月21日だったので出店を諦め、6月29日(月)からYMCAの玄関先で無人販売しました。残りは天気と相談で収穫します。



[キタアカリ]



[YMCA玄関先での販売]

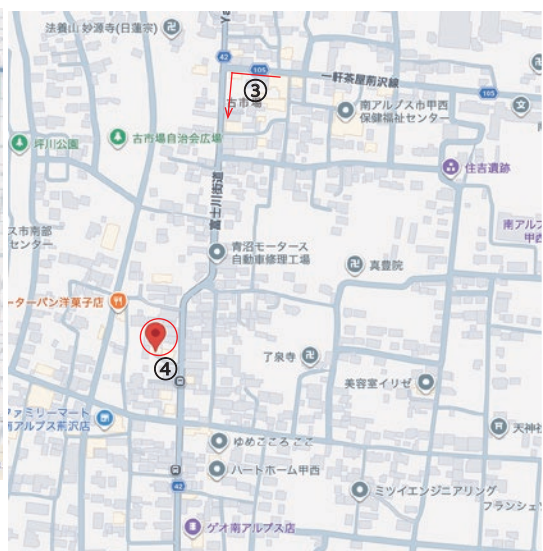


監督:タマラ・コテフスカ
製作年:2023年
時間:80分
文部科学省選定作品

「ザ・ウォーク ～少女アマル、8000キロの旅～」

私は希望。新たな居場所を求めて、あなたと歩む。
戦争によって家や家族、日常生活のすべてを失った子どもたちの声を伝えるため、3.5メートルの人形アマルがヨーロッパ横断の旅に出る。

現在、世界で1億人以上の人々が国内外に避難し、難民状態にある。そして、その内の約4割が18歳未満の子どもである。戦争により子どもたちは住み慣れた家や大切な人、教育を受ける権利をも奪われ、貴重な子ども時代を失っている。そうした子どもたちの悲しみや願いを伝えるため、2021年、身長約3.5メートルの人形アマルの旅プロジェクトThe Walkが始まる。アマルはアラビア語で「希望」を意味し、9歳のシリア難民の少女をかたどっている。本作はアマルがシリア国境からヨーロッパを横断する旅路を追いながら、アマルの眼差しから世界の実情を伝え、アマルとともに難民の人たちの声を聴いていく。



【会場案内～甲府市内から】

- ①浅原橋をわたり、「浅原橋西」信号を左折・南下
- ②「東南湖」信号(右手にカインズ)を右折・直進
- ③突き当たり「古市場」信号を左折
- ④約400M南下(途中クランクを過ぎる)右目的地